



平成30年度 小学校便り

沼小便り



学力特集号
平成30年10月30日
北九州市立沼小学校

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

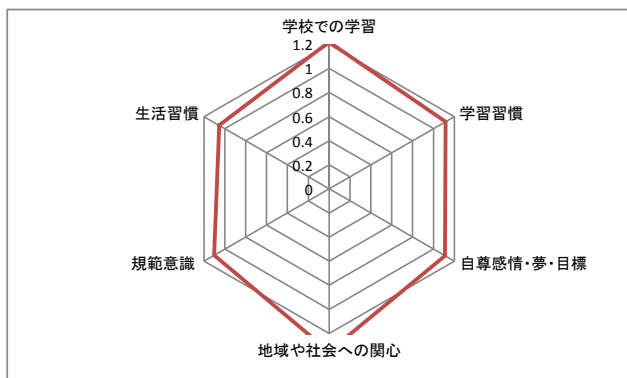
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	言語に関する問題に対して大変強く、読むことに関する問題に対してやや弱い傾向がある。無解答率が低かった。主語と述語の関係に注意して文章を書く問題、慣用句を正しく使う問題、漢字を文章の中で正しく使う問題がよくできた。目的に応じて、必要な情報を捉える問題に努力が必要である。	上回っている
国語B	記述式の問題に対してやや弱い傾向がある。無解答率が低かった。計画的に話し合うために、司会の役割について捉える問題がよくできた。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて自分の考えをまとめる問題、目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題に努力が必要である。	下回っている
算数A	量と測定、図形、数量関係の問題に対して強い傾向がある。無解答率が低かった。円周率の意味を理解する問題。百分率を求める問題がよくできた。数量の関係を理解し、数直線上に表す問題に努力が必要である。	上回っている
算数B	量と測定、図形、数量関係の問題に対して弱い傾向がある。無解答率が低かった。横に並んだ七つの数について、示された表現方法を適用して書く問題がよくできた。メモの情報とグラフを関連付けて解釈し、記述する問題や棒グラフや帯グラフから読み取る問題に努力が必要である。	下回っている
理科	自然事象についての知識・理解の問題に対して強く、観察・実験の技能の問題に対して弱い傾向がある。無解答率が低かった。人の腕が曲がる仕組みや乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることについての問題がよくできた。電流の流れ方や土地の浸食について、結果を見通して実験を構想する問題に努力が必要である。	同程度

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
学校での学習活動、家庭での生活習慣ともにほぼ全項目で肯定的な回答が全国平均を上回った。「家で学校の宿題をしている」と答えた児童100%、「将来、人の役に立つ人になりたい」と答えた児童100%、「学校のきまりを守っている」と答えた児童98.8%、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。」と答えた児童94.9%、「学校の授業以外に、普段(月～金)1日当たり1時間以上勉強する」と答えた児童83.5%など学校や家庭で教えられたことをきちんと守り、真面目に学習に取り組もうとする児童の様子が見られる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・前学年までの学習内容につまずきのみられる児童や、定着や理解に時間のかかる児童を個別に指導する時間「補充学習タイム」(週2回)を継続して実施する。(昨年度9月より放課後に実施)
- ・朝学習の時間(週2回15分間、月一国語タイム、水一算数チャレンジタイム)に学力向上のための特設時間を設定。全校一斉に実施し、取組の徹底を図る。3年生以上は学力定着サポートシステムを活用し、国語と算数の基礎・基本の定着に努める。
- ・全校で統一した「振り返りの視点」の掲示物を用いて、低学年の時から児童の実態に応じた振り返りを行うようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習の時間の目安(10分間×学年+10分間)、内容、量等について職員間で共通理解を図るとともに、学年だより・保護者会等で家庭に周知し、学校と家庭が連携して児童の学力向上を図る。
- ・宿題のスタンダード化(時間、学年別、教科別内容等)を図り、宿題の提出を徹底させる。
- ・「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組や「保護者と学ぶネットマナー教室」などを実施し、児童・保護者への啓発を図る。